



発行所：みんなで政治を考える会
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ハウストゥ四条ビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310

発行人：二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館921号室
TEL.03-6550-0921 FAX.03-6551-0921

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。
題字：栢木寛照

えとす

年間購読料 1,200円(一部100円)
第3種郵便物認可 平成2年1月18日
口 座 01000-4-62360

平成25年 **3** 月号
No.253

京都の智恵を日本に活かす。
二ノ湯智ホームページ <http://www.ninoyusatoshi.com>

自民党TPP参加交渉を了承 脱退覚悟で国益遵守を



TPP交渉参加を表明する安倍首相

熱気の中で白熱した議論

聖域なき関税撤廃を前提とする限りTPP交渉に参加をしないというのが、昨年末の自民党の選挙公約であった。本年2月22日の首脳会談の結果、安倍総理とオバマ大統領は、「環太平洋パートナーシップ」(TPP)交渉に関する共同声明を発表し、「聖域なき関税撤廃」が前提でないことが文書で確認された。それを受けて、自民党本部では、連日TPP対策委員会が開かれ、TPPがわが国に与える影響について、論議が交わされた。15日には安倍首相がTPP参加交渉に入ることを表明するために、幹部としてはそれまでに、党内の意見を取りまとめる必要があった。13日夜、党本部で開かれたTPP対策委員会では、各議員からは交渉参加によって、わが国に対して、極めて不利な条件が押し付けられるのではないかと心配する声があった。最終的に、政府はあくまでも国益を遵守するといふ前提で、もしそれが守られなければ脱退もあるという条件をつけて、自民党は了承した。

恒心

★諺には動物に因むものが多いが、動物にも色々な種類があるが、中でも馬に関するものも多い。我々の日常生活の中で、よく使われる「馬耳東風」、「馬の耳に念仏」などは人の意見に耳を傾けない頑迷固陋な態度をさす。今の北朝鮮のような態度である。★「南船北馬」は選挙に勝ち抜くために、息つく暇もなく東奔西走して、選挙区を忙しく走り回っている政治家の日常の様である。そうはなりたくないものだ。★「乞食が馬を貰う」は市議員時代に先輩から教わった。実力不相応な物を貰って、手に負えない状態で、厳しく言うと、経験も統治能力も無いのに3年3ヶ月間、政権を担当した民主党とよく似ている。★先日、同僚議員が、「うちの県で公認候補となった人は、歳は食っているが、流石にいい話をした。」と感心していた。70才を越える公認候補者が「自分は老馬の智でもって政治の世界で貢献したい」と挨拶したそうだ。★「老馬の智」とは長年の経験、体験から会得した智恵を生かしたいという意味である。先の総選挙では30、40代が一挙に増えた。確かに優秀な人が多い。しかし、知識や、机上の空論だけで、人間社会は生きられるものでない。長い人生の歩みの中で、取得した智恵、つまり「老馬の智」が必要である。★年を重ねたから、智を収得出来るものではない。普段の勉強、努力が欠かせない。私もそろそろ高齢者の部類に入る年齢に近づいてきた。ただの老馬ではなく、皆の前で、「老馬の智」を生かしたいと胸を張って言えるように精進しなければならない。

自民党 TPP決議をまとめる 安倍首相に決議書を手渡す

自民党は外交・経済連携本部(衛藤征士郎本部長)の中に、TPP対策委員会(西川公也委員長)を設置、委員会をさらに5つのグループに分け、TPP参加によって生ずる問題点を検討してきた。最終の意見を取りまとめる対策委員会が13日夜、党本部で開かれた。議員の関心が高く、議員も会場に入れないほどの盛況であった。議員からはTPP参加に心配する声もあったが、怒号が飛び交うような光景はなかった。色々な意見や思いがあっても、最後にはまとまる。さすがに自民党は大人の政党という感じである。

この日、党の意見を政府に申し入れる決議を取りまとめた。14日、幹部が首相官邸に安倍首相を訪ね、「TPP対策に関する決議」を手渡した。



熱気溢れるTPP対策委員会

TPP対策に関する決議要旨

①国民の意見が大きく分かれる中で、我が国がTPP交渉参加の是非を判断することは、容易ではない。安倍総理におかれては、岐路に立つ日本の経済・社会が今後進むべき方向を選択するという高い見地から判断願いたい。なかんずく、上記のような様々な意見を十分に尊重され、我が国の自然的・地理的あるいは歴史的・社会的条件、和が国を取り巻く国際環境、経済再生の重要性等を踏まえ、国家百年の計に基づく大きな決断をしていただきたい。

②なお、仮に交渉参加を判断する場合において、TPPが国民生活に大きな影響を及ぼし得ることから、以下の諸点を確実に実行すべきである。この場合において、特に、自然的・地理的条件に制約される農林水産分野の重要5品目等やこれまで営々と築き上げてきた国民皆保険制度などの聖域(死活的利益)の確保を最優先し、それが確保できないと判断した場合は、脱退も辞さないものとする。

(1)政府は党内5グループ並びに

21作業分野に対する検討チームの取りまとめの内容を踏まえ、2国間交渉等にも留意しつつ、その主張が交渉結果にしっかりと反映されるよう全力を挙げ、交渉の進展に応じ、適時に十分な情報提供を行うこと。

(2)これまで、国内の各産業や各制度については、省庁ごとに個別に交渉することが多かったが、TPP交渉においては、強力な交渉チームを作り、また閣内の連携を強く保つことにより、政府一丸となって国益を十分に実現していくこと。

(結び)

仮にTPP交渉に参加する場合は、国益がしっかりと守られ、結果として日本の繁栄につながるよう、政府と与党が一体となって交渉を進めるべく、自由民主党外交・経済連携本部内のTPP対策委員会と政府は緊密に連携すべきである。

また、各国の主張を冷静に見極め、我が国としての主張を効果的に展開していくために、党としても国会議員による議員外交を、戦略的、かつ、積極的に展開してまいる所存である。

二ノ湯議員、

ODA調査でベトナムへ

二ノ湯参議院議員は3月8～13日の日程で、ODA(政府開発援助)の調査のため、安井美沙子(民主党・新緑風会)、大江康弘(自民党・無所属の会)両参議院議員と3名で、ベトナムのハノイ、ホーチミンの両市を訪問した。3名ともベトナムは初めてで、早朝から夜遅くまで、精力的にODA案件の施設を見学し、日本の援助が上手く生かされているのを確認した。同時に、日本企業関係者、現地で活躍するボランティアとも意見交換し、非常に有意義な調査視察となった。さらにベトナム政府関係者と両国の経済発展、安全保障について話し合い、両国の緊密な関係が、アジアの発展と安定のために重要であることを認識した。

○政府高官との意見交換・3月8日

●シン計画投資省副大臣

△ベトナムにおける日本のODAの重要性

ベトナム戦争の和平協定が締結された1973年に、日本とベトナムは外交関係を樹立し、今年で40周年を迎える。今や両国は「戦略的パートナー」として、極めて重要な関係にある。日本はベトナムにとり最大の投資国であり、中国に次いで、第2位の貿易国でもある。ベトナムにとって、日本はODAの最大の援助国であり、ODAの対象は経済発展、民間投資促進につながる大型のインフラ開発やビジネス環境整備に力を入れている。ベトナムは今後、益々経済発展を続けていくと予想されるが、そのためには投資国が安心出来る法制度の確立、人材の育成、インフラ(港湾等)の整備が必

要であり、日本のODAには特に期待している。さらに経済発展に伴う貧富の格差是正、ベトナムは海抜が低いために気候変動対策問題にも力を入れていきたい。そのためにもODAを使いたい。ベトナム政府、国民は日本の援助に感謝している。

●ガ1外務省多国間経済協力局長

☆TTP交渉を巡るベトナムの実情

ベトナムは2010年にTTPに参加することを決めた。その後3年間、準備を続け、交渉の中でTTPに関する内容を議論してきた。なぜベトナムは参加するのか。ベトナムは全体的な立場から参加を決めた。近年ベトナムは経済成長が低くなってきた。経済発展のためには、法制度の整備、国民の意識改革も必要で、TTPに参加することによって、ベトナムの改革にもプラスになる。ベトナムにとっての課題は3つある。①繊維製品に関する原産地規則の問題②水準の高い環境問題③労働環境の改善に関する問題。これらの問題については、国内の意見集約をはかってきており、国民のコンセンサスが得られている。ベトナムは日本のTTPへの参加を歓迎したい。日本の参加は、①単なる経済、貿易だけでなく、アジアにおける戦略にとって重要である。②今後20年間に亘るアジアの経済発展にとって良い機会である。交渉に参加して、2国間、多国間との交渉をして、最終的に日本の利益を考えて、参加するかどうかを決めたら良いのではないかと。

●コイ外務省北東アジア局長
☆南シナ海における海上安全

両国関係は、草の根交流だけでなく、政治家の相互訪問も頻繁に行われている。両国関係は経済だけでなく、安全保障にとっても非常に重要である。1月に安倍首相が我が国を訪問され、意見交換し、ベトナム、アセアン諸国にとって、アジア、太平洋地域の平和と安定が重要であることが、確認出来た。今、東シナ海において、中国の動きがおかしい。アジア・太平洋地域が悪い方向に向かっている。ベトナムと中国が意見交換をしている時、中国は尖閣諸島は日本が間違っていると、南シナ海でもベトナム、フィリピン、東アジア諸国が間違っていると、ベトナムは国際法にもとづいて東シナ海問題を解決する立場であり、武力による解決に強く反対する。中国が大国にふさわしい責任を果たすことを祈っている。公海の安全を確保するために、日本とアセアン諸国は協力しよう。



コイ局長と会談(外務省で)

視察した政府開発援助対象

3月9日(ハノイ)

○ニヤツタン橋

ハノイ市の経済発展に寄与すると期待される。日本の経験と技術を活かした紅河に架かる巨大プロジェクト



2013/3/9 12:18
ニヤツタン橋

○バックマイ病院

病棟、医療技術、医療器械にも日本が貢献しているベトナム最大の中核病院

3月10日

○ダウンラム村

文化財の保存技術と観光などの町おこしに協力し、村の人材育成に取り組む

3月11日(ホーチミン)

○ホーチミン工科大関連バイオマスプラント
東大との技術協力で農業廃棄物を利用してバイオガスとエタノールを生産。地域住民の生活の安定と環境保全に役立てる

○水環境改善事業

大阪市からの下水道局専門家が指導して、汚水処理と水環境改善に取り組む

○ホーチミン盲人協会

日本からの寄付による点字用のパソコンと印刷機によって盲人の小学生用の教科書と職業訓練用のテキストを作成

3月12日

○ロンアン省工業団地

日本の自治体(神戸市)と民間企業の協力による公害を出さない環境に配慮した工業団地

○トゥアンアン障害児教育センター

日本の寄付によって建設された言語聴覚訓練施設で、聴覚障害児の機能回復訓練が熱心に行われている

バイク洪水の中を
車が走る

ベトナムでは、庶民の足はバイク。その数3千万台と言われている。広い道もバイクであふれている。2、3人乗りもあれば、幼児を乗せているものもある。我々はマイクロバスでの移動であったが、ハラハラし通して、心臓が悪かった。



バイク洪水(ホーチミン市)

二ノ湯武史氏、 自民党公認候補者に決定

自民党本部は2月28日、選挙対策本部会議を開き、滋賀県連から申請のあった二ノ湯武史氏(36)を参議院選挙公認候補者として決定した。



お詫び

先月号で京都府出身の法務大臣が、谷垣禎一氏で3人目と掲載いたしました。林田悠紀夫先生が京都府知事を退任された直後、参議院選挙に出馬され、法務大臣に就任されました。名知事のイメージが強く、法務大臣を経験されたことを全く失念してしまいました。皆様から苦情と過ちの指摘の電話をいただきました。ここに謹んでお詫びを申し上げます。

二ノ湯武史の決意

私は、京都大学、松下政経塾を卒業後、進学学習塾を設立し、子供の教育にあたってきました。そのなかで、明るい未来を描けない子供たちを目の当たりにし、日本の将来を危惧するようになりました。

国政への想いを募らせていたところ、ご縁があつて自民党の公認を頂きました。この滋賀の地に骨を埋める覚悟で、そしてこの滋賀の地から、景気回復、教育再生に邁進してまいる所存でございます。皆様の大きなご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。

是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会 年会費 1万円

入会申込・お問い合わせ先

二ノ湯さとし事務所 ☎075-315-2228

身辺雑記

一、1票の格差が2・43倍ある状態の昨年末の総選挙は違憲であると東京高裁が判決を下した。1票の格差は正は、各党の利害が対立して、実現しない。立法機関である国会は司法から指摘されるまでもなく、改革を急がねばならない。

一、中国の大气汚染は深刻である。汚染は自国だけでなく、気流に乗って隣国にまで被害が及ぶ。かつて日本は四日市ぜんそくという公害を経験した。公害克服には費用がかかるが、世界第2の経済大国の中国。世界に対して責任がある。

一、勝てば官軍。それが端的に表れるのが政治の世界。野党時代の自民党本部は閑散としていた。人気のない部会には、参加する議員はほんの数人という有様であった。それが今はまるで様変わり。どんな部会も多くの議員が参加している。

一、最近親しい「ラーメン屋」「喫茶店」の主人に聞くと、景気は良くはなっていないが、底なし沼の状態から、ようやく足が地に着いた感じがしてきたという。庶民の最前線にいる人達の声にも景気回復の兆しが見え始めてきた。

一、国民新党の自民党への合併問題にケリがついた。国民新党は自民党の野党時代、民主党と連立政権を組み、閣僚を出していた。いわば美味しい物を食べ、いい時を過ごした。民主党が野党になると、

今度は自民党では筋が通らない。

一、最近の若者は内向きで、海外に出ようとしないと嘆きの声が聞かれるが、アジアの諸国で、海外協力隊のボランティアとして献身的に働く若者に多く出会った。特に30才前後の女性が多い。頼もしい限りである。

一、所変われば品変わるという。国によって食べ物も様々で、ベトナム北部では犬や熊を食べる習慣があるようだ。国道沿いには、犬、熊の肉を売る店が結構ある。日本人から見ると、気持ちが悪いと思うが、これもひとつの食文化である。

「日本真生塾」第30回・第31回例会のお知らせ

平成25年3月25日(月) 18時~21時

平成25年4月15日(月) 18時~20時

場所：龍谷大学アバンティ響都ホール(京都駅八条口前アバンティ9F)

★今後のテーマは「戦後の日本」について進めてまいります。

<お問い合わせは事務局へ>(担当：近藤)

TEL：050-7544-4018 メール：nihonsinseijuku@yahoo.co.jp

内容・年会費など詳しくはホームページをご覧ください。日本真生塾で検索。

日本真生塾 塾長 岡本幸治